

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	現代文	学年	第3学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	現代文B（教育出版）				
副教材	新国語総合ガイド（京都書房）						

学習目標	近代以降のさまざまな文章に触れて読解・鑑賞の能力をいっそう向上させ、認識力・思考力・感受性を養うとともに、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、人間性の向上に努める。現代の言語文化を享受できるような読書力を拡充し、人生を豊かにする。
------	---

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査	
				①	②	③	④	⑤		
1 学期	4月 5月	作品読解への理解を深め、自分の考えを表現する。	・主人公の心理を情景描写との関係でとらえることで、文学作品の読解に関して理解を深め、それについて効果的に表現する。	小説 舞姫	○			◎	○	第1回
	6月	感性を磨く。	・随筆の表現を読み味わい、生きることについて考えを深める。	随想 後生の桜	○			◎	○	
	7月	要約力を磨く。	・接続詞の使い方に留意して要約する力を身に付ける。	評論 問われる「身体」の生命	○		◎	○		
2 学期	8月 9月	論理展開を分析する力を養う。	・段落構成に対する意識を持ち、本文全体の論理展開を分析する力を養う。	評論 <私>はどこへ行く？	○			◎	○	第2回
	10月	批評を通して理解を深める。	・現代について書かれた文章を読み、人間、社会、自然についての考えを深める。	評論 技術の変質と二十一世紀の課題	○			◎	○	
	11月	登場人物の心理変化を読み取る。	・登場人物の心理変化を読み取り、作品主題の普遍性を理解する。	小説 おどる男	○			◎	○	第3回
	12月	詩歌を読み味わう	・詩歌の背後に隠された作者の意図を鑑賞する。	現代の短歌	○	◎		○		
3 学期	1月 2月 3月	要約力を磨く。	・字数に合わせて書き分ける力を養う。	評論 ソメイヨシノ革命	○		◎	○		

学習の方法	授業では難度の高い文章を深く読み込み、内容を的確に理解していきます。教材によっては調べ学習や発表、スピーチを行います。また、グループ学習を行い、周りの人と話し合う機会を多く設けます。家庭での予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、どこが重要な点かをはっきりつかみましょ。年3回の定期考査や小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物、小テストの成績などを総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力・語彙力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	古典B	学年	第3学年	類型	I型
単位数	3単位	教科書	精選古典B（東京書籍）				
副教材	新国語総合ガイド・新しい古典文法・新明説漢文						

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする。
------	---

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	物語を読み味わう。 ・物語を読み、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	源氏物語	○			◎	○	第1回
	5月	文章を読み味わう。 ・筆者の論理を理解する。	漁父辞	○			◎	○	
		史話を読み味わう。 ・登場人物の行動を理解する。	十八史略	○			◎	○	
	6月	随筆を読み味わう。 ・思想や感情を的確にとらえる。	徒然草・玉勝間	○			◎	○	
	7月	俳論を読み味わう。 ・俳論を読み、論旨を読み取る。	去来抄	○			◎	○	
漢詩を味わう。 ・情景や心情を読み味わう。		唐詩							
2 学 期	8月	評論を読み味わう。 ・評論を読み、その論旨を読み取る。	無名抄・俊頼髓脳 源氏物語玉の小櫛	○			◎	○	第2回
	9月	史記を読み味わう。 ・登場人物の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。	荊軻伝・韓信伝	○			◎	○	
	10月	物語を読み味わう。 ・物語を読み、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	落窪物語・堤中納言 物語・源氏物語	○			◎	○	第3回
	11月								
12月									
3 学 期	1月 2月 3月	評論を読み味わう。 ・古文に関する現代の評論を読み、新たな視点から古文の価値について考える。	和歌というメディア	○			◎	○	

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会をとらえて、班やクラスでの話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年3回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	--

評価の仕方	予習は当然行うものとして準備する。発表、話し合いなどの日常の取組についても評価の対象とする。よって、文法力・語彙力、漢文独特の句法・歴史、古典の知識（有職故実等）も鍛えておく必要がある。 定期考査による評価に加え、夏季・冬季の長期休業で与えられる課題（意見文、感想文、サブテキスト等）や平常の小テストの成績などを総合的に評価していく。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史B	学年	第3学年	類型	I型
単位数	4単位	教科書	詳説世界史改訂版（山川出版社）				
副教材	アカデミア世界史（浜島書店）						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと流れを日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察する。 歴史学習を通じて、歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる国際人としての自覚と資質を養う。
------	---

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> 各国の重商主義政策と国際関係を、また17世紀のイギリス革命によって立憲王政が成立したことを学習する。 産業革命・技術革新・交通革命でイギリスが繁栄したこと、アメリカ独立革命・フランス革命の結果、市民社会が誕生したことを学習する。 自由主義・ナショナリズム運動が高揚したこと、合衆国の発展と移民の流入・先住民や黒人への抑圧の問題を学習する。 		◎	○		第1回
	5月	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立		○		◎		
	6月	第11章 欧米における近代国民国家の発展		○		◎		
	7月							
2 学 期	8月	第12章 アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ列強のアジア侵略の特色をヨーロッパにおける資本主義と関連させ理解し、アジア諸国の変容を学習する。 帝国主義時代の列強の世界政策の様相やアジアの民族運動について学習する。 第一次大戦後の国際政治の動向と世界恐慌から第二次大戦終結に至るまでの政治・経済の動向を学習する。 米ソ両陣営の対立や民族独立運動を扱い、世界の政治・経済の動向を学習する。 冷戦の終結やソ連・東欧社会主義国の崩壊など、現代世界の情勢を学習する。 	○			◎	第2回
	9月	第13章 帝国主義とアジアの民族運動		◎		○		
	10月	第14章 二つの世界大戦			○	◎		
	11月	第15章 冷戦と第三世界の自立			○		◎	第3回
	12月	第16章 現代の世界			◎		○	
		分野別総合問題演習						
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 演習問題やマーク式問題等に取り組むことで、総合的な力を養う。 	○			◎	
	2月							
	3月							

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して世界の歴史の流れを整理・理解していきます。 人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、『世界史重要語句Check List』（啓隆社）などを活用して知識の整理を図ることが必要です。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に加え、提出物・小テストの成績などを総合的に評価します。 平常の取組についても評価の対象とします。世界史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去の出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	第3学年	類型	I型
単位数	4単位	教科書	詳説日本史改訂版（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店）		詳録新日本史史料集成（第一学習社）				

学習目標	我が国の歴史の展開について、世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、我が国の文化と伝統についての認識を深める。 また、歴史学習を通じて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
------	--

		学習計画及び内容			評価の観点					定期考査	
					①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	第6章 幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桃山文化、幕藩体制が確立した時期までを世界史的背景と国内の政治、社会の動向と関連に着目して幅広く学習する。 ・ 幕藩体制の下で発展する農業や商工業、その他の諸産業の展開とその社会的な役割及び都市や農村で生み出された文化の特色を学習する。 ・ 農村を基盤とする幕藩体制が動揺していく過程と、社会・経済の発展の中で近代を準備する新しい要素が形成されてきたことを学習する。 			○	○			第1回	
	5月	第7章 幕藩体制の展開				○		○			
	6月	第8章 幕藩体制の動揺						○	○		
	7月					◎		○			
2 学 期	8月	第9章 近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開国後の我が国が国家的独立を維持しながら政治・経済・社会・文化の全般にわたってどのように近代化を推進したかを、多面的・多角的に学習する。 ・ 第一次世界大戦から第二次世界大戦の終結に至るまでの我が国の歴史の展開について、国内の動向と世界情勢との関連に留意し学習する。 ・ 第二次世界大戦後の我が国の民主主義国家としての再生の過程や政治の動向、新しい外交関係、日本経済の発展、国民生活の向上などを世界の動きと関連させて総合的に学習する。 			◎		○		第2回	
	9月										
	10月	第10章 二つの世界大戦とアジア				◎		○			
	11月	第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代				○			◎		第3回
	12月	第13章 激動する世界と日本 分野別総合問題演習						◎	○		
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に応じた演習問題やマーク問題に取り組むことで知識を整理するとともに、総合的な力を養う。 				◎	○			
	2月										
	3月										

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して日本の歴史の流れを整理・理解していきます。 人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめることは当然のこと、入試過去問題や模試などを利用して知識の整理をはかる必要があります。
-------	---

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に判断して評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	地理B	学年	第3学年	類型	I型
単位数	4単位	教科書	新編詳解地理B改訂版(二宮書店) 高等地図帳(二宮書店)				
副教材	新編地理資料(東京法令出版) 新地理要点ノート(啓隆社) 地理ワークブック(愛媛県高教研地理歴史・公民部会地理部門) 地理統計要覧(二宮書店) 地理B一問一答(Z会)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養う。 ・地理学習を通じて、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
------	--

		学習計画及び内容				評価の観点					定期考査
						①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 2章 資源と産業 流通と消費 3章 人口と村落・都市 4章 生活文化と民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の商業・観光・交通・情報通信を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げ、形成要因に関して考察する。村落・都市に関する基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解し、地域性との関連を考察する。民族・宗教・国家の関連を理解し、基礎的・基本的知識を習得する。 							第1回	
	5月					○	◎				
	6月					○			◎		
	7月					○			◎		
2 学 期	8月	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 3章 現代世界と日本 分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界が自然・政治・経済・文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解する。 ・世界の諸地域の事例を通じて、様々な地域の地域性を多面的・多角的に考察し、比較・関連付けることにより地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付ける。 ・日本が抱える地理的な課題を考察し、その課題を多面的・多角的に探究する。 ・演習問題に取り組むことで、総合的な力を養う。 						第2回		
	9月						◎			○	
	10月					○				◎	
	11月					◎	○				第3回
	12月						○		◎		
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・マーク式問題に取り組むことで、総合的な力を養う。 								
	2月					◎		○			
	3月										

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。 ・具体的な地誌学習を通じて、世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。 ・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。 ・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。 ・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	公民	科目	倫理	学年	第3学年	類型	I型
単位数	2単位	教科書	高等学校改訂版倫理（第一学習社）				
副教材	最新図説倫理（浜島書店）						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「人生いかに生きるべきか」という問題について、愛の教えや人間の尊厳の思想、自由平等の理念などを通して、自分自身の主体的問題として考える。 ・学んだ知識を生かして、人生観・世界観を育て、自らの人格形成に努める。 ・良識ある社会人として必要な能力と態度を育て、21世紀を生きていく総合的な人間力を培う。
------	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点					定期考査	
				①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	第1章 青年期の課題と自己形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で自分を意識すること、そしてその自分の人生を自分自身でつくっていかなくてはならないことを理解する。 ・神学から哲学へと進化していった歴史的発展は、人生観や世界観の形成にどんな意味を持つのかを理解する。 ・イエスの行いの宗教的な意味を考える。 ・イスラームが、宗教を越えた社会全体を律する教えであることを考える。 ・仏教が人間をどのようにとらえているか、どう生きていくかについて考える ・古代中国人の考え方の根拠となった敬天と崇祖の念について学習し、中国の思想的源流について理解する。 ・日本の文化・思想を考える上で、その前提となる風土の特性をまず理解し、ついで外来文化を受容することによって形成されてきた日本の文化にみられる特質としての文化の重層性を考える。 	◎		○			第1回	
	5月	第2章 人間としての自覚								
	6月	・ギリシャの思想				○		◎		
	7月	・キリスト教 ・イスラーム ・仏教 ・中国の思想								
2 学 期	8月	第3章 日本の思想	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土と伝統 ・外来思想の受容 ・庶民思想 ・西洋思想との出会い ・ルネッサンスと宗教改革の思想的中心となった人文主義や福音主義について学習し、それらが近代的な人間中心主義の出発点になったことを理解する。 ・近代科学の方法論を学習し、経験論と合理論の考え方の特色を考察する。 ・ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説やカント・ヘーゲルの自由の実現を理解し、近代市民生活における個人と社会の関係について考察する。 ・生命への畏敬とはどのような実践なのか考える。 ・社会主義思想や実存主義、プラグマティズムについて学び、人間の「生き方」や主体性の確立について理解する。 ・理性に信頼をおく近代の人間像を問い直そうとする現代の思想とその人間像について理解する。 			◎		○	第2回	
	9月									
	10月	第4章 西洋思想				○		◎		
	11月	・現代の特質				○		◎		
	12月	・人間の尊厳 ・科学革命と自然観 ・自由で平等な社会								
3 学 期	1月	第5章 現代の諸課題と倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題と倫理について総括し、「人間の生き方」を深く考える。 ・センター試験対策の問題演習を行う。 	○	◎				第3回	
	2月	問題演習								
	3月									

学習の方法	<p>基本的には教科書に沿って授業を進めます。教科書や副教材の図説をもとに担当教員がオリジナルで作成した学習プリントを解きながら、基礎的事項の定着を図ります。「現代社会」に重複する分野はありますが、3年生で始める科目ですから、普段は「一問一答倫理用語問題集」や市販の問題集等を活用しながら、しっかりと予習復習することが大切です。「人間の生き方」を学ぶ科目ですから、それに関する文献等の読解力も必要となります。朝の読書などで本を読み、自分の意見をまとめる能力が必要となります。</p>
-------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度やノート、授業プリント、確認問題集等の活用状況を点検し評価します。 ・資料をもとに、思考・判断する能力を小テストや定期考査の問題等で評価します。 ・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。
-------	--

評価の観点	<p>① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)</p>
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	公民	科目	政治・経済	学年	第3学年	類型	I型
単位数	2単位	教科書	高校政治・経済新訂版（実教出版）				
副教材	最新図説政経（浜島書店）						

学習目標	<p>民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。</p> <p>現在、生じている諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育む。</p>
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則	◎		○			第1回
	5月	第2章 日本国憲法の基本的性格		○	◎			
	6月	第3章 日本の政治機構		○	◎			
	7月	第4章 現代日本の政治	◎	○				
2 学 期	8月	第5章 現代の国際政治		◎	○			第2回
	9月							
	10月	第2編 現代の経済 第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ		○	◎			
	11月	第3章 現代経済と福祉の向上			○	◎		
	12月	第4章 世界経済と日本		◎	○			
3 学 期	1月	第3編 現代社会の諸課題		◎	○			
	2月							
	3月							

学習方法	<p>基本的には教科書に沿って授業を進めます。教科書や副教材の図説をもとに担当教員がオリジナルで作成した学習プリントを解きながら、基礎的事項の定着を図ります。「現代社会」に重複する分野はありますが、3年生で始める科目ですから、普段は「政治経済10分間テスト」や市販の問題集等を活用しながら、しっかりと予習復習することが大切です。新聞記事や文献等を用いて、自分で考え、文章にまとめる能力の育成を図ります。</p>
------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度やノート、授業プリント、確認問題集等の活用状況を点検し評価します。 ・資料をもとに、思考・判断する能力を小テストや定期考査の問題等で評価します。 ・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。
-------	--

評価の観点	<p>① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）</p>
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学探究 I	学年	第3学年	類型	I型
単位数	3単位	主たる教材	「数学探究 I」 (松山東高校数学科)				
副教材	問題集「改訂版 キートレーニング数学演習 I・II・A・B 受験編」(数研出版) 参考書「新課程 チャート式 基礎からの 数学 I+A, 数学 II+B」(数研出版)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、既習内容の定着を図るとともに、センター試験・2次試験に対応できる学力を養う。 答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。
------	---

	学習計画及び内容		評価の観点					定期考査	
			①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	第1章 数と式	・因数分解、根号を含む式の計算 ・絶対値と場合分け、1次不等式の利用		○		◎	第1回	
	5月	第2章 2次関数	・絶対記号を含む関数 ・2次関数のグラフと最大・最小 ・グラフと方程式・不等式			◎	○		
		第3章 図形と計量・図形の性質	・三角比の相互関係、三角比の拡張 ・正弦定理、余弦定理、三角形の面積 ・三角形の辺の比と外心・内心・重心		○		◎		
	6月	第4章 データの分析・論理	・箱ひげ図と度数分布表 ・散布図と相関係数 ・集合の要素の個数、必要条件・十分条件		○	◎			
		第5章 場合の数	・順列、円順列、重複順列 ・組合せ、同じものを含む順列			◎	○		
	7月	第6章 確率	・確率の基本性質、余事象の確率 ・独立な試行、反復試行 ・条件付き確率			◎	○		
		第7章 整数の性質	・約数と倍数、最大公約数と最小公倍数 ・1次不定方程式、方程式の整数解				◎		○
2 学 期	8月	第8章 整式の除法・不等式の証明	・剰余の定理と因数定理 ・不等式の証明、相加平均・相乗平均の関係			○	◎	第2回	
	9月	第9章 図形と方程式	・直線上と平面上の点、直線の方程式 ・2直線の関係、円の方程式、円と直線 ・軌跡と方程式、不等式の表す領域			○	◎		
	10月	第10章 三角関数	・弧度法、三角関数とそのグラフ ・加法定理の応用、三角関数の合成		○		◎		
	11月	第11章 指数関数と対数関数	・指数の拡張、指数関数 ・対数とその性質、対数関数、常用対数		○	◎		第3回	
		第12章 微分と積分	・微分係数、導関数、接線、最大・最小 ・関数のグラフと方程式・不等式 ・不定積分、定積分、面積				○		◎
	12月	第13章 数列	・等差数列と等比数列、和の記号Σ ・階差数列、群数列 ・漸化式と数列			○	◎		
3 学 期	1月	第14章 ベクトル	・ベクトルの演算・成分・内積 ・位置ベクトルと図形、ベクトル方程式 ・空間座標における図形とベクトル			◎	○		
	2月								
	3月								

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> 演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった習問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方にも配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。 授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に加え、週末課題やノートの提出、平常テストの成績などを総合的に評価します。 予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学探究Ⅱ	学年	第3学年	類型	I型
単位数	2単位	主たる教材	「数学探究Ⅱ」(松山東高校数学科)				
副教材	問題集「改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」(数研出版) 参考書「新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ+A, 数学Ⅱ+B」(数研出版)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、より高度な知識・技能を身に付けるとともに、センター試験・2次試験に対応できる学力を養う。 答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第1章 数と式	○			◎		第1回
	5月	第2章 2次関数		◎	○			
		第3章 図形と計量	○			◎		
	6月	第4章 データの分析	○	◎				
		第5章 場合の数と確率			◎	○		
	7月	第6章 図形の性質				○	◎	
		第7章 整数の性質			◎	○		
2 学 期	8月	第8章 いろいろな式			○	◎		第2回
	9月							
	10月	第9章 図形と方程式			○	◎		
		第10章 三角関数	○			◎		第3回
	11月	第11章 指数関数と対数関数	○	◎				
		第12章 微分と積分				○	◎	
12月	第13章 ベクトル			◎	○			
3 学 期	1月	第14章 数列				○	◎	
	2月							
	3月							

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方に配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。 授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理法解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。
------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に加え、週末課題やノートの提出、平常テストの成績などを総合的に評価します。 予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	生物探究	学年	第3学年	類型	I型
単位数	2単位	教科書	生物基礎実験ノート・問題集2017 (愛媛県高等学校教育研究会 理科部会 編)				
副教材	生物基礎実験ノート・問題集2017 (愛媛県高等学校教育研究会 理科部会 編)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象について、問題演習などを行い、自然に対する関心や探究心を深め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 ・生物基礎の学習を通して、生物の基礎基本の学力定着を目標とする。
------	--

		学習計画及び内容			評価の観点					定期考査
					①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・生物基礎の学習内容を理解する。 ・顕微鏡操作を習得する。 ・生物の基本単位である細胞について、観察・実験を通して理解を深める。 ・細胞内の生体反応について化学的内容を理解する。 ・DNAの構造や遺伝情報の仕組み、タンパク質合成過程について理解を深める。 	◎			○			第1回
	5月	1 生物と遺伝子 (1) 生物の特徴				○	◎			
	6月				◎	○				
	7月	(2) 遺伝子とその働き		◎	○					
2 学 期	8月	2 生物の体内環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の恒常性維持のはたらきとして、血液循環、生体防御、間脳による調節のしくみについて理解を深める。 ・ヒトの体内環境について理解を深め、健康への意識を高める。 ・植物植生の遷移について環境の要因と関連付けて理解を深める。 ・バイオームについて理解を深め、自然保護の意識を高める。 				◎	○	第2回 第3回	
	9月	(1) 生物の体内環境								
	10月					○		◎		
	11月	3 生物の多様性と生態系 (1) バイオームの多様性と分布		○			◎			
12月						○	◎			
3 学 期	1月	(2) 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> ・食物連鎖や炭素・窒素の循環を通して、生態系についての理解を深める。 			◎		○		
	2月									
	3月									

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・生物現象の意義や目的を理解すること。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出し、探究する態度を身につけること。
-------	---

評価の仕方	3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	地学探究	学年	第3学年	類型	I型
単位数	2単位	教科書	地学学習帳（愛媛県高等学校教育研究会地学部門）				
副教材	スクエア最新図説地学（第一学習社）						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	1 固体地球とその変動 1 地球	◎			○		第1回
	5月	2 活動する地球			○◎			
	6月	2 移り変わる地球						
	7月	1 地球史の読み方	◎	○				
2 学 期	8月	2 地球と生命の進化			◎	○	第2回	
	9月							
	10月	3 大気と海洋 1 大気の構造		○	◎		第3回	
	11月	2 太陽放射と大気・海洋の運動	○		◎			
	12月	3 日本で見られる季節の気象		○◎				
3 学 期	1月	4 宇宙の構成		◎		○		
	2月							
	3月							

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けること。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年	第3学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)				
副教材	図説 現代高等保健 304 (大修館書店)						

学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
------	--

	学習計画及び内容		評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	体づくり運動	◎	◎	◎	○		
	5月	球技選択	◎	◎	◎	○		
	7月	体育理論 体づくり運動・ダンス	◎ ◎	○ ○	○ ○	◎ ◎		
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス	◎	◎	◎	○		
	9月							
	10月	球技選択	◎	◎	◎	○		
	11月	体づくり運動・持久走	◎	◎	◎	○		
	12月	体育理論	◎	○	○	◎		
3 学 期	1月	球技選択	◎	◎	◎	○		
	2月	体育理論	◎	◎	◎	○		
	3月							

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。
-------	---

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 運動の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	学年	第3学年	類型	共通
単位数	4単位	教科書	CROWN English Communication Ⅲ (三省堂)				
副教材	CROSSBEAM 5						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件に合わせて、即興で話したり、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。 情報や考えなどを聞いて、質問したり意見を述べたりし話題を発展させることができる。 立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べることができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 論点や根拠などを明確にし、文章の構成を考えながら書くことができる。 説明や描写の表現を工夫して、相手に効果的に伝えるように書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理して書くことができる。
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 対話や説明などを聞いて、情報や考えなどを的確に理解したり、概要や要点をとらえたりできる。 未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら聞くことができる。 主題と詳細情報を区別しながら理解できる。 	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 書かれた情報や考えなどを的確に理解したり、概要や要点をとらえることができる。 速読したり、精読したりするなど、目的に応じた読み方をすることができる。 書き手の意図などを正確に理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査	
			①	②	③	④	⑤		
1 学期	4月	L.1	<ul style="list-style-type: none"> 柔道の創始者の生涯とその功績を、時系列を追って理解させる。 時間的順序のディスコースマーカ―を意識して読ませる。 	○	◎	◎	○		第1回
	5月	L.2	<ul style="list-style-type: none"> マイクロファイナンスの仕組みを把握させ、その取り組みの具体例と成果を読み取らせる。 例示・列挙・新情報の追加のディスコースマーカ―を意識して読ませる。 	○	◎	◎	○		
	6月	L.3	<ul style="list-style-type: none"> モナ・リザが有名な絵となった経緯を把握させる。 言い換え、要約・結論のディスコースマーカ―を意識して読ませる。 	○	◎	◎	○		
	7月	L.4	<ul style="list-style-type: none"> どうして地球上で使える水が0.08%しかないのか、その解決方法としてどのようなことを提言しているのかを読み取らせる。 原因・理由と結果のディスコースマーカ―を意識して読ませる。 	○	◎	◎	○		
2 学期	8月	L.5	<ul style="list-style-type: none"> 日本とフィンランドの税制の違いを読み取らせて、それぞれの特徴を考えさせる。 逆接・対比のディスコースマーカ―を意識して読ませる。 	○	◎	◎	○		第2回
	9月	L.6	<ul style="list-style-type: none"> どうして著者は地球をLucky Planetと呼んでいるのか、他の星と比較してその理由を把握させる。 スキミングをさせて大意を素早く読み取らせる。 	○	◎	◎	○		
	10月	L.7	<ul style="list-style-type: none"> 世界人口がどのように変遷しているのかを読み取らせる。 グラフの数字を把握しながら英文の内容を理解させる。 	○	◎	◎	○		
	11月		<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情や行動の原因と理由を把握させ、最終的に話がどのような流れになっているのかを理解させる。 文中には語句で明示されていない行間の内容まで読み取らせる。 	○	◎	◎	○	第3回	
	12月	L.8	<ul style="list-style-type: none"> 三人の生徒が主張している内容を把握させ、それぞれの意見の違いを理解させる。 主張している内容と理由、そして結論をきっちり分けて把握させる。 	○	◎	◎	○		
1月	L.9	<ul style="list-style-type: none"> 東京スカイツリーがどのような建築物かを把握させ、そのデザインに込められた意味や機能について理解させる。 入試を見据えたリスニング問題に挑戦させる。 	○	◎	◎	○			
3 学期	2月 3月								

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> メモや写真等を利用して与えられたテーマについて話す。 本文の内容に関する英問に英語で答える。 キーワードを使って本文の要約を相手に口頭で伝える。
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	学年	第3学年	類型	I型・ISG型
単位数	3単位	教科書	Departure English Expression Ⅱ (大修館)				
副教材	アップリフト英作文・英文速読ドリル10minutes Level 2 (Z会出版)						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。 英文の内容に関する質問について、根拠文を正しく捉え、自分なりの英語で答えることができる。 与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、賛成・反対の立場とその理由を具体例を示して書くことができる。 自分の意見や考えを段落構成を考えながら100語程度で書くことができる。 英文の内容について、自分なりの英語で要約することができる。
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 対話や説明などを聞いて、キーワードを捉え、大意を把握することができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文の内容を正しく聞き取ることができる。 	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 説明文やエッセイ、対話形式など様々な形態の英語を、重要な事実を捉えながら正しく読み取ることができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて正確に音読することができる。

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1学期	4月 Part 3 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を整理してまとめて表現する。 英語学習の意義や利点について、データをもとにブレインストーミングをする。 	○	◎	◎	○		第1回
	5月 Part 3 Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> 賛成・反対の立場に立って、自分の意見を表現する。 自転車の免許制に反対する立場から、データをもとにブレインストーミングをする。 	○	◎	◎	○		
	6月 Part 3 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> 物事の長所・短所を考えて、自分の意見を表現する。 電子書籍の例を参考に電子辞書の長所と短所をブレインストーミングする。 	○	◎	◎	○		
	7月 Part 4 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> Show & Tellで自分の意見を伝える。 電子書籍の例の文章を参考にし、肉付けをした各文をまとめ、電子辞書について、4つのパラグラフで書く。 	○	◎	◎	○		
2学期	8月 Part 4 Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> Speechで自分の意見を伝える。 書いた原稿を暗記し、大切なポイントを理解して何度も練習をしてから、グループで発表する。 	○	◎	◎	○		第2回
	10月 Part 4 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> Presentationで自分の意見を伝える。 質問を頼りに、環境のためできる身近なことについてブレインストーミングをする。 	○	◎	◎	○		
	11月 Part 5 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> Mini-Debateで意見の交換をする。 提示された論題に対して、肯定側、否定側双方の立場から、できるだけ多くの理由を考え、Constructive Speechを作成する。 	○	◎	◎	○		第3回
	12月 Part 5 Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> Debateで意見の交換をする。 Constructive SpeechのアウトラインにSupportingを付け加えてスピーチを完成する。 	○	◎	◎	○		
	1月 Part 5 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> Panel Discussionで意見の交換をする。 提示されたテーマについての現状を、さまざまな角度から分析する。 	○	◎	◎	○		
3学期	2月							
	3月							

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、英語で分かりやすく話す。 与えられたテーマに関して、ある程度まとまった文章を書く。 与えられたテーマでディスカッションやディベートをする。
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---